



喜與

三河吉田

筆此言也水くく喜の月素標

鮎沼や岸に切去る 硯石是詭

山崎の氣も流る程懐し 魯石

梅の香や袖に女房のまきゆり 櫻畔

山吹やまきりわさくみ 地まき道 木芽

葉を落し 春の月まきし 雲に猫 南湖

種の新まき 春まき 臍 月相茂

粥杖やうき新 袖に 烏雲 石羊

水宿の区越に 湯あひまき 也 兔堂

初蝶の朝白まきゆめ 風情うき 古帆

さる雨やまき路も 流る 琴に音 尾上女

下宿やまき路も 雨りふの色 里代女

柄杓井に 鮎の沼まき 喜の哉 友茶

鏡子見し 桜おれり 野梅哉 其梅

坪鞠に 柳引さる 子まき 季成

まき路の如く 神のれまき 葉齋

